

令和4（2022）年度 学校自己評価報告書

学校法人 中島学園
熊本歯科技術専門学校

目 次

I	本年度（令和4年度）の重点目標と達成計画.....	1
II	評価項目の達成および取り組み状況.....	2
	1. 教育理念・目標・人材育成像.....	2
	2. 学校運営.....	2
	3. 教育活動・学修成果.....	3
	4. 学生支援.....	4
	5. 教育環境.....	4
	6. 学生募集.....	5
	7. 財務.....	6
	8. 法令等の遵守.....	6
	9. 社会貢献・地域貢献.....	7
	【添付】学生アンケート結果（在校生及び卒業生その保護者）.....	8
	【添付】SDGsの取り組みについて.....	11

I 本年度（令和4年度）の重点目標と達成計画

1. 教育活動

（1）国家試験対策

国家試験対策をシステム化することは継続しつつ、学生本人に対して受験勉強を早くはじめることを意識づけることで、国家試験合格を目指す。計画的に模試を実施（本年度・過年度業者模試）と徹底した復習（質問の個別対応なども含む）を行うことで合格までをサポートし、歯科技工士科・歯科衛生士科、ともに国家試験合格率 100%を目指す。

（2）中途退学者の減少

クラス担任を軸に専任教員も含めたサポート体制を充実させる。指導方針を教員間で共有する取り組みを目標とする。またホームルームや個別面談を定期的に行うことで中退予備軍を早期に手当できるよう学生個々の状況把握を行い、保護者と連携をとりながら退学者を極力出さないことに努める。目標は常に 0 名である。

（3）入学生の確保

今年度は新型コロナウイルス感染症対策による活動の制限はある程度見込まれるが、昨年度以前のような行動制限はほとんどなくなると思われる。引き続き「事務局」を中心に、効果的な活動（ホームページの積極活用）に取り組む。また、学校公式の LINE・Instagram も活用し歯科技工士科・歯科衛生士科そして学校の認知度をさらに上げる仕組みを構築する。進学ガイダンス等も開催ができればできる限り参加し、オープンキャンパスへの動員につなげる。入学定員充足率は 80%確保を目標とする。

本年度行う広報活動は以下の通りである。

- ① 学校訪問については、高校への出向はまだ難しい状況下にあるが、今年度も引き続き指定校推薦高校に対してはアポイントをとり、訪問可能校は実施する。
- ② 常にオープンキャンパスの実施内容を検討し、安全対策を講じながら実施する。
- ③ 会議等制限がかかる中ではあるが、できる限り歯科関係団体との連携を継続したい。仕事として歯科技工士・歯科衛生士双方の認知度向上を図り、出願数の確保に向けて動いていく。
- ④ 「専門実践教育訓練給付制度」は社会人をターゲットとして、積極的に PR していく。
- ⑤ 「高等教育の修学支援新制度」は高校生を対象に、積極的に PR していく。

（4）経営の効率化

常時目標としている、経費節減（特に消耗品関連）に向けてのペーパーレス意識の強化を図る。このことも含め SDGs の取り組みを実行していく。学内ネットワーク・e-mail の利用を継続して促進し、引き続き本格的に情報の共有・見える化を実施する。

Ⅱ 評価項目の達成および取り組み状況

1. 教育理念・目標・人材育成像

適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1

No.	評価項目	評価
1	教育理念・教育目標・育成人材像は明確に定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
2	学校における職業教育の特色を打ち出し、実践しているか	4
3	教育理念・教育目標などは教職員・学生・保護者・関係業界に対して周知されているか	3
4	各科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

(1) 現状と課題

- ① 歯科医療従事者不足の慢性化は継続しているが、この不足に対して歯科医療の専門教育養成校として、安定して入学生を確保できるよう専門分野の特性を明確にし、職業教育の特色をさらに打ち出す必要がある。

(2) 今後の改善方策

- ① 歯科技工士科においては、認知度向上に努めるため県内全中学・高校へ啓発ポスターを配布するなど、時間はかかるが継続して取り組む必要が必要である。
- ② 歯科衛生士科においては、実習期間巡回の機会を活かし、医院他関係団体と密接に情報交換を行い、連携を保つことが必要である。

2. 学校運営

適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1

No.	評価項目	評価
1	目的・目標等にあった学校運営方針が策定され、また各種諸規定・規則等の整備がなされているか	4
2	運営組織や意思決定機関は、規則等において明確化されているか。また、有効かつ効率的に機能しているか	4
3	人事・給与等に関する制度は整備されているか	4
4	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
5	教育活動に関する情報公開が適切に行われているか	4
6	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

(1) 現状と課題

- ① 諸規程は状況に応じ継続して見直し、常に整備が行われている。
- ② ほぼすべてにおいて学校の情報公開は行われている。

(2) 今後の改善方策

- ① 人事考課の実施の検討。(現状は教職員面談を年2回程度実施している) 給与制度を一考する時期にあると考える。

3. 教育活動・学修成果

適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1

No.	評価項目	評定
1	教育理念・教育目標の沿った教育課程が策定され、カリキュラムが体系的に編成されているか	4
2	1に示すカリキュラムは定期的な見直しが行われているか	4
3	カリキュラムは教職員および学生に周知されているか	4
4	時代に即した先端的な知識・技能等を修得するための研修や教職員の資質向上のための取り組みが行われているか	3
5	授業に対する評価・改善の体制および実施が行われているか	3
6	成績評価・進級・卒業の基準は明確であるか	4
7	国家試験合格率の目標を設定するとともに、取得(合格率)向上に向けての取り組みが図られているか	2
8	退学率の低減が図られているか、また低減に向けての取り組みは教職員間で共有されているか	2
9	就職率の向上が図られているか	4

(1) 現状と課題

- ① コロナ禍における教員と学生のコミュニケーションの取り方に工夫が必要(マスク着用のため)。理解力・国語力(語彙力)不足は顕著であるが、択一・マークシート式である国家試験であることから徹底した復習が必要である。
- ② 退学防止の取組みについては、教職員間で共有している。しかし退学者が毎年出ていることは課題である。中退予備軍を早期に把握し、面談等指導の徹底を図る。
令和4年度退学者：歯科技工士科 12.0% (3/25名)、歯科衛生士科 3.4% (4/117名)
- ③ 入学前のオープンキャンパスにおいて、職業理解を深めること、学校の理念・雰囲気などの伝え方を見直すことで、入学後のミスマッチによる退学者を防ぐことにもつなげる。

(2) 今後の改善方策

- ① 国家試験合格率は、両科とも合格率 100%の目標を掲げているが、2022年度国家試験合格率：歯科技工士科 100% (14/14名)、歯科衛生士科 83.9% (26/31名)であった。「国家試験」に対して、学生自身の早期取り組みと計画的な対策授業の実施が重要である。
- ② 就職率は常に 100%であるが、直近卒業生の離職が無いように支援を行い、就職活動を早期に開始し、就職先とのミスマッチが極力出ないようにバックアップしていく。

4. 学生支援

適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1

No.	評価項目	評定
1	進路（就職）および学生生活に関する相談・カウンセリングに関する体制が整備され、潤滑な運営が定期的に行われているか	4
2	奨学金等の経済的支援制度が整備され、支給から返還までの手続きが確立されているか	4
3	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
4	健康管理についての指導および支援の体制は整っているか	3
5	不慮の事故など、在学中の学生生活に係る災害に対して、保険に加入しているか	4
6	保護者との連携（情報提供等）がなされているか	3
7	卒業生に対する支援体制があるか	4

(1) 現状と課題

- ① 本校独自の入学特待制度とともに、日本学生支援機構（JASSO）の奨学金を募集から返還手続きまでの一連の流れは確立し、運用できている。歯科衛生士科のみの対象ではあるが「歯科医院奨学金制度」も継続している。
- ② 学年担任制により、学生の相談には親身に取り組んでいる。保護者に対してもホームページを活用して情報提供を行っている。

(2) 今後の改善方策

- ① 入学生のみならず、在校生に対する経済的支援対策を行っていく。
(2023年6月、引き続き修学支援新制度対象校となるべく確認申請を提出予定)
- ② 学内での学生の様子、学校行事等をホームページ・公式 SNS を活用し情報発信を行う。

5. 教育環境

適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1

No.	評価項目	評定
1	教室・実習室等は、室数・広さともに教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4
2	学生が実習等を行う上で、教室を含めた諸施設を提供（開放）しているか	3
3	休憩室等のスペースが置かれているか	3
4	防災に対する設備・非常時の体制は整備されているか	4
5	感染症（新型コロナ）に対する対策は整備されているか	4

(1) 現状と課題

- ① 防災点検も法令に基づいて実施している。毎年6月に防災訓練を実施。(2022年度中止)
- ② 教室・実習室等の清掃は十分実施されている。建物内外の補修が急務である。

(2) 今後の改善方策

- ① 2023年度より順を追ってリニューアルを実施していく(数か年計画で建物内外)。
- ② 機器・備品も耐用年数を大きく超過して使用しているものもあるため、学習に支障をきたすことがないように日々点検をすることが重要である。また減価償却にも関係するため、償却資産のチェック(除却・貯蔵品の有無)を計画中。

6. 学生募集

適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1

No.	評価項目	評定
1	学生募集計画を策定し、適宜実施されているか	4
2	学校案内・募集要項の内容は出願者が必要とする内容が掲載され、かつ内容は適切なものになっているか	4
3	学生募集に対する対応等、体制は整っているか	4
4	オープンキャンパス・体験入学の回数や時期、また実施する内容は参加者(出願者)が学校を把握するに十分なものとなっているか	4
5	業界関係団体(歯科医師会)等と連携して、歯科業界への認知度・志願者向上に向けた連携が取れているか	4
6	出願状況はどうか、また定員充足率は満足できるものであるか	2

(1) 現状と課題

- ① 新型コロナによる厳しい制限が少しずつ緩和され、高校訪問等の募集活動も平常時に近いもので実施できた。情報提供をホームページだけでなく、SNS(LINE・Instagram)の公式アカウントを取得し運用を開始(2022年6月より)。情報提供はタイムリーに行えている。
- ③ オンライン進学相談会を継続したが、全て来校型の参加となった。流れは対面型へ移行しているといえる。2023年度は実施しない。

(2) 今後の改善方策

- ① 出願者・入学者において歯科衛生士科はおよそ昨年並みを確保した。歯科技工士科は未だ下回っているため、募集活動のさらなる工夫をしている(熊本県内全中学校・高等学校への啓発活動:ポスター)。
- ② 100%定員確保は必須の命題であるが、最低でも90%は確保できる体制をさらに整える。
2023年4月学生定員充足率67.3%。スタート人数(DT科:22名、DH科:126名)
(参考:2022年4月学生定員充足率64.5%。スタート人数(DT科:25名、DH科:117名))

7. 財務

適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1

No.	評価項目	評定
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

(1) 現状と課題

- ① 予算・収支計画は決算で見ると限り有効かつ妥当なものといえる。
- ② 監事による会計監査を適正に実施している。

(2) 今後の改善方策

- ① 情報公開（財務その他ほぼ全て）はホームページにて随時公開中である。

8. 法令等の遵守

適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1

No.	評価項目	評定
1	関係法令（学校教育法・私立学校法）・専修学校設置基準の遵守がなされているか	4
2	個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
4	自己評価結果を公開しているか	4

(1) 現状と課題

- ① 法令等を遵守し、適正な運営が行われている。
- ② 個人情報を含めたデータ管理についてのセキュリティ対策は、現状出来る範囲での万全の態勢で取り組んでいる。

(2) 今後の改善方策

- ① 自己評価の実施は出来ているが、学生募集活動の問題点など改善項目はまだ多い。一気に改善するものと地道に改善させるものを、しっかり把握し取り組んでいく必要がある。

9. 社会貢献・地域貢献

適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1

No.	評価項目	評定
1	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2
2	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献をおこなっているか	3

(1) 現状と課題

- ① コロナ禍により、臨地実習を含めたボランティア活動の実施が進まなかった。
- ② 種々SDGs への取り組みをスタートさせた (LION(株)のハブラシ回収プロジェクト参加など)。

(2) 今後の改善方策

- ① SDGs の取り組みの継続した PR を行うことが重要である。
- ② 目標達成に向け学校内においても、教職員・学生双方とも理解のうえ行動していくことが大切であるため、引き続き PR 活動を行っていく必要がある。

【添付】 学生アンケート結果(在校生及び卒業生その保護者)

1 歯科技工士科(前期・後期・通年)

(1) 【回答数・率】

	技工士科 1 年			技工士科 2 年		
	前期	後期	通年	前期	後期	通年
①学生数	9	8	17	14	14	28
②回答数	9	8	17	14	10	24
回答率% (②/①)	100.0	100.0	100.0	100.0	71.4	85.7

(2) 【集計結果】 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

質問 番号	質問事項	技工士科 1 年			技工士科 2 年		
		前期	後期	通年	前期	後期	通年
(1)	学校は、基本的な生活習慣が身につくように指導をおこなった	3.89	3.88	3.88	3.79	3.80	3.79
(2)	学校は、社会人としてのマナーを含めた人間関係の教育を行った。	4.00	4.00	4.00	3.86	3.80	3.83
(3)	学校は、専門職としての職業観を育成する教育を行った。	4.00	4.00	4.00	3.93	3.80	3.88
(4)	教員は、適切な共済(プリント等の補助教材含む)を用いてポイントを的確に押さえ、目標を明確にした授業を行った。	4.00	4.00	4.00	3.79	3.60	3.71
(5)	教員は、就職して即実践に役立つ専門性のある指導(技術的指導含む)を行った	4.00	3.88	3.94	3.79	3.80	3.79
(6)	教員は、授業への出席や欠席、遅刻に対しての指導を行った	3.89	3.13	3.53	3.71	3.60	3.67
(7)	教員は居眠りや騒がしいなど、学生の授業態度の指導を行った	3.78	3.88	3.82	3.86	3.70	3.79
(8)	教員は分からない点(提出課題含む)は、個別対応などで粘り強く適切に指導を行った	3.89	3.88	3.88	3.86	3.90	3.88
(9)	教員は、成績不振者への指導・支援が十分に行われていた	4.00	3.88	3.94	3.93	3.80	3.88
(10)	教員は、公平かつ正確な成績評価を行った	4.00	3.88	3.94	3.86	3.80	3.83
(11)	学校(教員)・保護者・学生との間で、学校生活(成績・出欠状況含む)の様子が文書・電話等を通じて共有されていた	3.89	3.88	3.88	3.79	3.80	3.79
(12)	国家資格取得に対する指導体制は整備され、機能していた	4.00	4.00	4.00	3.86	3.90	3.88
(13)	進路・就職に関して、学生自身が主体的に選択できるように情報の提供・指導が行われていた	4.00	3.86	3.94	3.93	3.80	3.88
(14)	学校は、奨学金・校納金などの手続き、問い合わせに対して、分かりやすい説明がなされていた	4.00	3.75	3.88	3.71	3.70	3.71
(15)	学校は、学生への健康管理・防災等に配慮し、健全で安全な学校生活に配慮していた	3.89	3.75	3.83	3.71	3.70	3.71
(16)	学校は、事務局・窓口における事務手続きや電話対応など、気持ちの良い対応ができていた	4.00	3.88	3.94	3.79	3.70	3.75
(17)	学校行事などは、様々な体験ができるように工夫されていた	3.89	3.88	3.88	3.71	3.70	3.71
(18)	この学校に入学してよかったと思う	3.56	3.88	3.71	3.86	3.80	3.83
計	全体平均	3.93	3.85	3.89	3.82	3.76	3.79

2 歯科衛生士科(前期・後期・通年)

(1) 【回答数・率】

	衛生士科 1 年			衛生士科 2 年			衛生士科 3 年		
	前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年
①学生数	42	39	81	43	43	86	31	31	62
②回答数	39	34	73	38	41	79	21	9	30
回答率% (②/①)	92.9	87.2	90.1	88.4	95.3	91.9	67.7	29.0	48.4

(2) 【集計結果】 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

質問 番号	質問事項	衛生士科 1 年			衛生士科 2 年			衛生士科 3 年		
		前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年
(1)	学校は、基本的な生活習慣が身につくように指導をおこなった	3.26	3.32	3.29	3.34	2.93	3.13	3.10	3.56	3.23
(2)	学校は、社会人としてのマナーを含めた人間関係の教育を行った。	3.33	3.32	3.33	3.53	3.15	3.33	3.14	3.44	3.23
(3)	学校は、専門職としての職業観を育成する教育を行った。	3.62	3.56	3.59	3.53	3.00	3.25	3.10	3.56	3.23
(4)	教員は、適切な共済(プリント等の補助教材含む)を用いてポイントを的確に押さえ、目標を明確にした授業を行った。	3.23	3.18	3.21	3.24	2.73	2.97	3.05	3.33	3.13
(5)	教員は、就職して即実践に役立つ専門性のある指導(技術的指導含む)を行った	3.44	3.35	3.40	3.21	2.71	2.95	2.95	3.44	3.10
(6)	教員は、授業への出席や欠席、遅刻に対する指導を行った	3.46	3.59	3.52	3.55	3.12	3.33	2.95	3.22	3.03
(7)	教員は居眠りや騒がしいなど、学生の授業態度の指導を行った	3.41	3.32	3.37	3.39	3.12	3.25	2.81	3.11	2.90
(8)	教員は分からない点(提出課題含む)は、個別対応などで粘り強く適切に指導を行った	3.18	3.24	3.21	3.18	2.63	2.90	2.90	3.11	2.97
(9)	教員は、成績不振者への指導・支援が十分に行われていた	3.23	3.38	3.30	3.24	2.61	2.91	2.76	3.33	2.93
(10)	教員は、公平かつ正確な成績評価を行った	3.33	3.35	3.34	3.18	2.29	2.72	2.95	3.33	3.07
(11)	学校(教員)・保護者・学生との間で、学校生活(成績・出欠状況含む)の様子が文書・電話等を通じて共有されていた	2.85	3.15	2.99	3.24	2.61	2.91	2.90	3.00	2.93
(12)	国家資格取得に対する指導体制は整備され、機能していた	3.33	3.21	3.27	3.34	2.83	3.08	3.14	3.33	3.20
(13)	進路・就職に関して、学生自身が主体的に選択できるように情報の提供・指導が行われていた	3.25	3.09	3.17	3.21	2.48	2.83	2.90	3.11	2.97
(14)	学校は、奨学金・校納金などの手続き、問い合わせに対して、分かりやすい説明がなされていた	3.15	3.29	3.22	3.42	3.00	3.20	3.05	3.44	3.17
(15)	学校は、学生への健康管理・防災等に配慮し、健全で安全な学校生活に配慮していた	3.21	3.21	3.21	2.97	2.68	2.82	2.86	3.33	3.00
(16)	学校は、事務局・窓口における事務手続きや電話対応など、気持ちの良い対応ができていた	3.49	3.47	3.48	3.42	3.17	3.29	3.05	3.44	3.17
(17)	学校行事などは、様々な体験ができるように工夫されていた	3.36	3.38	3.37	3.29	2.70	2.99	2.86	3.11	2.93
(18)	この学校に入学してよかったと思う	3.28	3.24	3.26	2.84	2.41	2.62	2.95	3.67	3.17
計	全体平均	3.30	3.31	3.31	3.28	2.79	3.00	2.97	3.33	3.09

3【保護者アンケート(後期一括評価)】 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

質問 番号	質問事項	技工士科保護者	衛生士科保護者	全体平均
(1)	学校は、基本的な生活習慣が身につくように指導をおこなった	3.80	3.00	3.33
(2)	学校は、社会人としてのマナーを含めた人間関係の教育を行った。	4.00	3.14	3.50
(3)	学校は、専門職としての職業観を育成する教育を行った。	4.00	3.29	3.58
(4)	教員は、適切な共済(プリント等の補助教材含む)を用いてポイント を的確に押さえ、目標を明確にした授業を行った。	4.00	3.43	3.67
(5)	教員は、就職して即実践に役立つ専門性のある指導(技術的指導含 む)を行った	4.00	3.29	3.58
(6)	教員は、授業への出席や欠席、遅刻に対しての指導を行った	4.00	3.43	3.67
(7)	教員は居眠りや騒がしいなど、学生の授業態度の指導を行った	4.00	3.29	3.58
(8)	教員は分からない点(提出課題含む)は、個別対応などで粘り強く適 切に指導を行った	4.00	3.43	3.67
(9)	教員は、成績不振者への指導・支援が十分に行われていた	3.80	3.29	3.50
(10)	教員は、公平かつ正確な成績評価を行った	4.00	3.57	3.75
(11)	学校(教員)・保護者・学生との間で、学校生活(成績・出欠状況含 む)の様子が文書・電話等を通じて共有されていた	4.00	3.14	3.50
(12)	国家資格取得に対する指導体制は整備され、機能していた	3.80	3.14	3.42
(13)	進路・就職に関して、学生自身が主体的に選択できるように情報の 提供・指導が行われていた	4.00	3.29	3.58
(14)	学校は、奨学金・校納金などの手続き、問い合わせに対して、分か りやすい説明がなされていた	4.00	3.0	3.42
(15)	学校は、学生への健康管理・防災等に配慮し、健全で安全な学校生 活に配慮していた	3.80	3.14	3.42
(16)	学校は、事務局・窓口における事務手続きや電話対応など、気持ち の良い対応ができていた	4.00	3.29	3.58
(17)	学校行事などは、様々な体験ができるように工夫されていた	3.60	2.86	3.17
(18)	この学校に入学してよかったと思う	4.00	3.71	3.83
計	全体平均	3.93	3.26	3.54

【添付】

学校法人中島学園・熊本歯科技術専門学校

SDGs の取り組みについて

サステナビリティ(環境・社会・経済の3つの観点からこの世の中を持続可能にしていくという考え方)の概念に基づき、国際的な取り決めとなりました「SDGs」。

学校法人中島学園・熊本歯科技術専門学校では、持続可能な開発目標である「SDGs」の達成に向けて、より持続性があるものなど、学校としてのゴール目標として学生・教職員一丸となって取り組むとともに、熊本歯科技術専門学校の特色ある教育の更なる推進、地域活動を通じての社会貢献に取り組んでまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



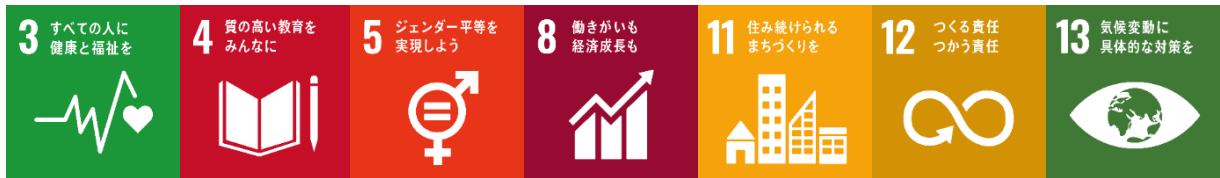
「SDGs」の達成には本学園・本校だけの活動では当然ながら限界があります。活動の推進に当たっては関連する各歯科関係機関・地域関係者などにもご協力・ご支援をいただくことにより、課題解決に努めて参ります。

持続可能な開発目標「SDGs」とは（国際連合広報センターWEBより一部抜粋）

開発アジェンダ(行動計画)の節目の年、2015年9月ニューヨークの国連本部において「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える首脳参加のもと、その成果文書として、「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。

アジェンダ(行動計画)は人間、地球及び繁栄のための行動計画として、宣言および目標をかかげました。この目標が、ミレニアム開発目標(MDGs)の後継であり、17の目標(ゴール)と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(SDGs)」です。

学園・学校が参画する目標(ゴール)とアクション



- ・敷地内全面禁煙に伴い、望まない受動喫煙の対策活動を行っています
- ・積極的にボランティア活動に参加しています。(郡市医師会、障がい者施設、幼稚園等)
- ・修学支援制度や教育訓練給付金制度、また本校独自の制度(入学特待制度など)を通じて学費サポートを継続して行っています。
- ・企業とタイアップした技術研修会(CAD/CAMなど)を実施しています。
- ・2020年度より歯科衛生士科の男女共学を開始。白衣は男女問わず使用できるズボンタイプを、スクラブにおいては男女共通デザインを採用しています。
- ・就職率は継続して100%を達成(県内外へ)。歯科技工士の養成校は本県では本校のみであり人材不足と言われる中、その育成を担っています。
- ・修業後の掃除指導を開校以来実施しています。
- ・LION株式会社様取り組まれているプログラムに参画しています。
- ・ペーパーレス化を推進し、ホームページやSNS等での情報発信に努めています。